

# APNIC56 参加報告書

2023/10/03

鬼塚俊佑

長崎県立大学

## 1. 序文

APNIC について

APNIC は、インターネット技術、ポリシー、セキュリティ、ネットワーキングに関する最新の情報と知識を共有し、アジア太平洋地域のインターネットコミュニティをつなげる場だ。

カンファレンスでは、キーノートスピーチ、テクニカルセッション、ワークショップ、パネルディスカッションなど、さまざまなプログラムが提供されます。これらのプログラムは、インターネット技術やポリシーに関する最新のトピックや動向に焦点を当てている。

APNIC カンファレンスには、ネットワークエンジニア、インターネットサービスプロバイダ、政府関係者、学術機関の研究者、セキュリティ専門家、など、幅広いバックグラウンドを持つプロフェッショナルが参加する。

年一回アジア太平洋地域内の異なる場所で定期的に行われ、今回は京都で開催された。

## 2. 参加動機

来年社会人としてのキャリアスタートを迎える立場として、最新のインターネット技術やトレンドの習得、今世界のインターネットを支えている方々との交流などを通して将来のキャリアに関して深く考える良い機会であると感じたため。

## 3. 参加したセッション

### 1 日目

ASO AC Meeting

Newcomers welcome

Opening Ceremony and Keynotes

Measuring ROA deployment in the DNS

Goodbye TCP

RoVISTA: Measuring the impact of ROV in RPKI at scale

## 2 日目

IPv6 Deployment

Technical 4 – JANOG

SONiC Network Operation System – Overview

Inclusion and Diversity

## 3 日目

APNIC By-laws Reform

Open Policy Meeting 1

Open Policy Meeting 2

APNIC Member Meeting 1

APNIC Member Meeting 2

## 4. 特に印象的だったセッション

### 1. Goodbye TCP

ホスト（サービス提供者など）とネットワーク運用者との間での信頼関係が低下し、アプリケーションがデータをより安全に扱うために暗号化やリダイレクトを利用しているという状況を指摘していた。又、ネットワーク運用者にとっては、トラフィックの内容を把握するのが難しくなっており、今後この状況を元に戻すことは難しいかもしれないという考えが示されていた。つまり、インターネットのセキュリティとプライバシー保護が向上している一方で、ネットワーク運用の透明性が低下している可能性があることが示唆された。

私の研究も QUIC を含むため、個人的に非常に勉強になるセッションだった。

### 2. JANOG52 NW Team BAKUCHIKU - Overview of Network Construction

JANOG という日本最大級のネットワークカンファレンスにネットワークを提供したチームのレポートだった。

会場に独自 AS から回線を引いたバックボーンチーム、会場まで引かれた回線から AP や配信機器にネットワークを提供する L2 チーム、AP の設定や機器の監視を行う AP・監視チーム、DNS や IPAM を提供するサーバーチーム、全長 1,343m ものケーブルを作成したケーブルリングチーム。

世界でも類を見ないクライアント数にネットワークを提供した知見は他では見ないもの

が多く、とても勉強になった。

### 3. Open Policy Meeting

APNIC は、アジア太平洋地域における IP アドレス、AS 番号、DNS サービスなどのインターネットリソースの割り当てと管理を行っており、その運営方針やポリシーの策定に関する意思決定プロセスを行っている。オープンポリシーミーティングは、これらのポリシーを変更したり追加したりする提案をする場である。

実際に参加してみて、反対する人賛成する人がマイクで意見をぶつけ、インターネットの運用方針が固まっていく場を目の当たりにし、とても良い刺激になった。

## 5. まとめ

APNIC カンファレンスへの参加を通じて、とても良い経験を積むことができた。この機会を提供してくださり、心から感謝申し上げたい。

カンファレンスではインターネットの技術、セキュリティ、ポリシーに関する最新の動向について学べ、また、多くの方々との交流を通じて、普段つながることのできない新たなコネクションを築くことができた。

今回学んだことを今後インターネット業界に入る身として何かしらの形で還元していきたいと思う。